

SURE: Shizuoka University REpository

<http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/>

| | |
|------------|---|
| Title | 日本と韓国における学校と教室文化の比較研究(その1) |
| Author(s) | 馬居, 政幸; 曹, 永達; 夫, 伯 |
| Citation | 静岡大学教育学部研究報告. 人文・社会科学篇. 44, p. 65-94 |
| Issue Date | 1994-03-25 |
| URL | http://doi.org/10.14945/00002905 |
| Version | publisher |
| Rights | |

This document is downloaded at: 2015-07-11T12:55:47Z

日本と韓国における学校と教室文化の比較研究（その1）

A Comparative Study of School and Classroom Culture in Japan and Korea (1)

馬居政幸・曹永達・夫伯
Masayuki UMAI, Youngdal CHO and Baek POE

（平成5年10月12日受理）

はじめに

本稿の共著者である馬居政幸（静岡大学）、曹永達（韓国ソウル国立大学校）、夫伯（韓国慶熙HOTEL経営専門大学校）の三名は、日本と韓国の青少年の行動様式や意識の特性とその背後にある文化の類似性と異質性を解明するために、両国の学校とりわけ教室文化に注目して比較研究を進めてきた。そしてその中間報告として、以下に提示する目的、方法、内容により、本年（1993年）4月2日に韓国のソウル大学校師範大学において共同発表を行った。

本稿は、その際に、後述するように、曹永達が韓国の中・高等学校の教室文化を研究することから考案した分析方法を、馬居政幸と夫伯が日本の教室文化の分析に適応した結果を発表した内容を基にまとめたものである。ただし、ソウル大学校での発表内容は、本共同研究全体の研究方法の前提にある論理の提示から分析結果の検討にいたるまで多岐にわたるものであり、また発表方法も教室文化の分析という研究内容の必然から、ビデオ映像やOHPを用いてのものであった。そのため、本稿では、本共同研究の第一次報告として、馬居と夫伯による日本の教室文化の分析結果の概要と分析資料を提示するに止め、その分析結果の詳細な論議、あるいは本共同研究の前提にある曹永達による分析方法の論理や韓国の教室文化の特性については、第二次報告にて著すことを前もって記しておきたい。

I. 本研究の概要

1. 研究の目的

本研究は、日本と韓国の青少年の行動様式や意識特性と、それを創出する多様な文化の表層と深層における同質性と異質性の構造を解明するための共同研究の一貫として、日韓両国の学校文化とりわけ教室文化に注目し、比較研究を進めることを目的とする。さらに、その最初の試みとして、教室文化を構成する上で最も重要な要因となる教科教育の授業過程の分析を研究対象とする。特に、日韓両国の多様な教科の中から、両国の文化の特性を最も反映する教科と考えられる社会科教育（韓国では社会教育）の授業過程をとりあげ、教室内に生じる教師と児童・生徒間の相互作用（classroom interaction）や発話様式（the organization of classroom discourse）を分析する。

そしてその分析結果に基づき、日本と韓国の教室文化の同質性と異質性を解明することを通じて、両国青少年の社会的意識・行動様式の形成過程についての仮説を提示するとともに、日韓両国の社会科授業改善への若干の提言を行う。

なお、本稿では、「はじめに」において述べたように、日本の社会科授業過程の分析とその特性解明に関する概要を中心として記述する。

2. 研究方法と研究内容

本共同研究は上記の研究目的のもとに、次の五つの段階により研究を進めてきた。

第一段階として、次の方法手順により研究データを収集・整理する。

- (1) 日本の小・中・高等学校の社会科授業への参与観察。
- (2) 同じく社会科授業過程のビデオ撮影による記録。
- (3) ビデオ映像をもとに、授業過程において教師と児童・生徒の間に生じる相互作用の詳細な記述。

第二段階として、この日本の社会科授業過程の記録を、曹永達が韓国の社会教育教室（授業）過程の「微視記述的研究方法（Micro-ethnographic research method）」として開発した「高等学校経済教室の相互作用類型理解のための概念」である次の二種の方法概念を用いて、馬居と夫伯が分析する。

- ①「社会的参与構造（social participation structure:sps）とその「類型化」
- ②「対話移動様式（turn-taking machinery）」とその「頻度分布」

第三段階として、上記の分析過程において、「日本の社会科授業における相互作用類型理解のための概念」として、曹永達の方法を応用して馬居と夫伯が開発した次の二種の方法概念を提示する。

- ①「日本の社会科授業の社会的参与構造」とその「類型化」
- ②「日本の社会科授業の対話移動様式」とその「頻度分布」

第四段階として、「社会的参与構造」と「対話移動様式」の概念を用いて、次の二つの観点から日本と韓国の社会科授業過程の類似性と異質性を解明する。

- ①「韓国経済教室社会的参与構造類型」と「日本の社会科授業の社会的参与構造類型」との比較
- ②「韓国経済教室主題学習セット対話移動様式 頻度分布」と「日本社会科授業対話移動様式 頻度分布」の比較

第五段階として、上記の分析と考察を踏まえて、日本と韓国の社会的文化的特性と両国社会科授業過程との相互連関性についての次の二つの仮説を提示することを通じて、両国社会科教育授業過程改善に向けての若干の提言を行う。

- ① 日本的集団主義（間柄・間人主義——察しの文化）との相互連関性
- ② 韓国的集団主義（帰属集団優先主義——主張の文化？）との相互連関性

3. 研究対象の特性

上述したように、本研究は日本の小・中・高等学校の社会科授業過程のビデオ撮影によるデータ収集からはじまる。そのため、馬居と夫伯は次の表-1に示す四種の授業（小学校第5学年；社会科産業学習・流通産業、中学校第2学年；社会科歴史的分野、中学校第3学年；社会科公

民的分野、高等学校第3学年；社会科政治経済）を研究対象に選んだ。

表-1 「分析対象授業」

| | |
|--|---------------|
| (1) 小学校第5学年（社会科産業学習・流通産業） | 授業者＝男子教師（32歳） |
| ① 単元名「なぜ宅配便の利用がふえたのか」 | |
| ② 学習内容「児童が一週間かけて調べてきた宅配便の利用がふえた理由を六つの項目に分けて発表していく。」 | |
| ③ 静岡県内の中規模住宅都市の中心地域にある公立小学校 | |
| (2) 中学校第2学年（社会科歴史的分野） | 授業者＝男子教師（33歳） |
| ① 単元名「軍縮への動きと軍部の台頭」 | |
| ② 単元内容「第一次世界大戦後の世界の軍縮の動き。その後の世界恐慌に伴う不景気の中で日本がとった行動。満州事変とその背景。」 | |
| ③ 静岡県内の中規模工業都市の中心地域にある公立中学校 | |
| (3) 中学校第3学年（社会科公民的分野） | 授業者＝男子教師（37歳） |
| ① 単元名「衆議院の優越」 | |
| ② 学習内容「参議院に対して衆議院が優越している内容と優越権が与えられている理由についての学習。」 | |
| ③ 静岡県内の中規模工業都市の中心地域にある公立中学校 | |
| (4) 高等学校第3学年（社会科政治経済） | 授業者＝男子教師（36歳） |
| ① 単元名「クレジットカード」 | |
| ② 学習内容「クレジットカードの機能と利点・危険な点を学び、クレジットカードの利用の仕方について考える。」 | |
| ③ 東京都内の国立大学附属高等学校 | |

II. 小学校、中学校、高等学校の社会科授業の相互作用類型についての考察

ここでは、曹永達が提示した「高等学校経済教室の相互作用類型理解のための概念」である「社会的参与構造」と「対話移動」という二つの分析概念を、日本の社会科授業の「相互作用類型」の分析に用いることにより、日本の社会科授業過程の「社会的参与構造」と「対話移動様式」の特性を考察する。

なお、ソウル大学校での研究報告においては、授業過程の概要をビデオ映像によって提示したが、本稿では不可能なため、授業内容を略術した一覧を提示することで代えたい。加えて、本稿において提示する日本の「社会的参与構造」と「対話移動様式」は、小学校1授業、中学校2授業、高等学校1授業、合計4種という非常に少数の社会科授業の分析に基づいて析出したものである。その意味で、いずれも本共同研究の過程における一つの「仮説」であることを前もって断っておきたい。

また、曹永達による「韓国の経済教室（授業）の社会的参与構造」を「KSPS」、馬居・夫による「日本の社会科授業の社会的参与構造」を「JSPS」と表記する。さらに、韓国では小学生と中学生いずれも「学生」だが、日本の学校では、通常、小学生を「児童」、中・高校生を「生徒」と表現する。そのため、本稿では両国の慣習にしたがって、韓国の授業に関す

る場合は「学生」、日本の授業に関しては、小学校の場合は「児童」、中学校の場合は「生徒」と表記する。

1. 日本の社会科授業の「社会的参与構造」(JSPS)とその特性

1) 社会科の社会的参与構造 (JSPS) の類型 (仮説)

(1) 曹永達による「社会的参与構造 (KSPS)」の類型とその特性

曹永達は韓国の「高等学校経済教室 (授業)」の分析を通じて、次に示す5種類の「社会的参与構造 (KSPS)」の類型を明らかにした。各類型の記号の意味と参与構造の特性を概略すると次の図-1のようになる。

① KSPS-1 類型

図-1-1の「T」は「教師」、「SS」は「学生集団」、「矢印」は「主たる話者とその方向」を意味する。また、「実線の四角」は「主たる聴者」、「点線の四角」は「従属 (副次) 的な聴者」として社会的に参与していることを意味する。したがって、この類型は、授業過程における教師と学生相互に関係により成立する社会的参与構造として、まず、教師 (T) が生徒集団 (SS) に問いを発し (矢印の方向)、次いで、生徒集団の一部がその問いに対して一斉に答える (白抜き矢印とその方向) 構造を図示したものである。

② KSPS-2 類型

図-1-2は、教師 (T) が特定の学生 (S) を指名 (矢印) して質問し、それに指名された学生 (S) が答え、それを他の学生が聞いていることを示す図である。

このような教師と学生の相互関係がKSPS-2類型である。

③ KSPS-3 類型

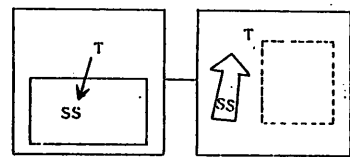
図-1-3は、教師 (T) が教科書を読ますために特定の学生 (S) を指名 (矢印) し、それに基づき指名された学生 (S) が「教科書」(実線の四角) を読み、それを他の学生が聞いている (点線の四角) ことを図示したものである。この類型は、KSPS-2類型に教科書という媒体を介した社会的参与構造となる。

④ KSPS-4 類型

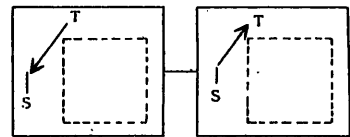
図-1-4は、教師 (T) の発問 (問題提起) に対し、学生集団がそれぞれ自由に論議している状況を図示

〈図-1〉

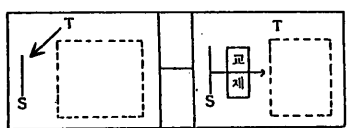
(1) KSPS-1 類型 [図-1-1]



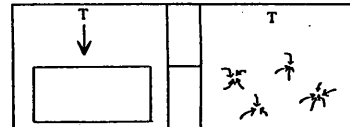
(2) KSPS-2 類型 [図-1-2]



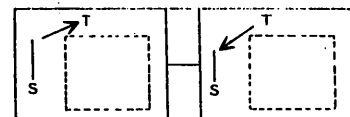
(3) KSPS-3 類型 [図-1-3]



(4) KSPS-4 類型 [図-1-4]



(5) KSPS-5 類型 [図-1-5]



している。これがKSPS-4類型である。

⑤ KSPS-5類型

図-1-5は学生(S)が授業の文脈にかかわらず突然教師に質問し(矢印)、それに教師(T)が答え、そのやりとりを他の学生が聞いている(点線の四角)状況を示している。これがKSPS-5類型である。

曹永達（チョウ・ヨンダク）の指摘によれば、この5種の類型の中で特に、KSPS-1類型すなわち「教師の全体学生を対象にした誘導と学生の反応」ならびにKSPS-3類型すなわち「教師のメッセージ伝達者として一人の学生に対する指名とその学生の反応（主に教科書の朗読等）」の2種が、韓国の高等学校の経済教室の社会的参与構造の典型である。両者とも教師中心の画一的で一方的な教授が中心となった授業を意味するといえよう。

さらに、このような韓国の社会（経済）授業過程における社会的参与構造の特性に対して、曹永達（チョウ・ヨンダク）は「韓国社会の社会文化的な与件と社会的相互作用の文化的な基本属性が教室に反映されている」と指摘し、その要因として「60余名の学生」、「教育内容と試験」、「社会的な相互作用での勤と礼節」の三点をあげる。

この曹永達による社会的参与構造（KSPS）の析出方法と同様の手順により馬居と夫伯が日本の社会科授業過程を考察したところ、韓国とは異なる数多くの社会的参与構造（JSPS）があることが明らかになった。

(2) 小学校社会科の社会的参与構造（JSPS）の類型（仮説）

次の表-2は小学校第5学年社会科「なぜ宅配便の利用が増えたのか」の授業過程を略述したものである。

表-2 「小学校第5学年 なぜ宅配便の利用が増えたのか」

| 時間 | 教師の活動 | 児童の活動 |
|------------|--|---|
| 導入 1～3分 | <ul style="list-style-type: none"> ・前回までの復習 ・宅配便の利用が増えたことをOHPのグラフで確認 ・どうして宅配便の利用が増えたのか児童の考えた6つの理由を書いたりカードを黒板に貼っていく。 →項目別に調べたことを発表することを確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・先生の語を聞いている ・OHPに注目 ・机の上には、宅配便、郵便の資料がたくさん置いてある。 |
| 展開 4分 | <p>1. <u>宅配便は、はやいから</u></p> <p>発問（はい これ調べてきた人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発表を板書したり、あいづちを打ったりして聞いている。 ・どのような方法で調べたのかななどを質問する <p>発問（お客さんが米店に荷物を持って行って、この米店に、車を取りにきます。そしてそこからいきにお客さんの家まで配達されるんですね）</p> <p>→OHPで車の絵を動かしながら、児童にわざとまちがった発問をし、発表をあおる。</p> <p>（とにかく はやくしたいんでしょ一回集めていたらめんどくさい）</p> <p>→途中の配送センターの必要性を児童に考えさせる</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、調べたことを、模造紙や、OHPにまとめ、前に出て発表する。 C₁～C₁₀ ・宅配便と郵便がそれぞれどのくらいの日数がかかるのかを発表 ・宅配は外国へも3日で届けてしまう —瞬、児童が沈黙する —えっ、ちがう！ はい！ はい！ （大きな声で5、6人の児童が挙手） C₁₁ 荷物を預かったら、いっ家に届けられるのではなくて、北海道から九州に運ばれるものもあるから一回工場のようなところに集められる。 C₁₂ 先生の言うように、途中の営業所はいらない —はい！ はい！ 大きな声で5、6人の子が挙手 C₁₃ 1度集めるのは北海道に送る荷物は北海道に送るにもつは、まとめて飛行機で運ぶ、1つの荷物を車で運ぶより、まとめて運んだ方がいい。 —うん。わかった！ 先生 納得。だいたい児童がうなづいている —はい はい 多数挙手 |
| まとめ | <p>（いいことを言う、こんな途中の営業所はいらないってわけだ）</p> <p>（わかったか？ 今のわかった？）</p> <p>いろいろな発表から、結がまとまらなくなり、先生がまとめる。（要するに スタートのところでわけた方がはやいというわけですね。）</p> | |
| 21分 | <p>2. <u>宅配便は便利だから</u></p> | |

| | | |
|------------|---|---|
| 展開 | <p>発問 (はい! これについて調べた人) 語がサービスの方に関係してしまったので店の数へ語を戻す ・発問 (青島地区にどのくらいのお店があるか調べた人いますか。) 日本全国の宅配便の取扱い店数をOHPの図を使って説明 ・発問 (昭和51年には、450件、では平成4年には何件あるでしょう。) 5千件 1万件と順番にきて児童に手を上げさせる。 ・OHPの図を動かし、店数の増加のすごさを極立たせる。 →視覚的に変化に気づかせ児童の関心をひく ・発問 (宅配のお店まで家から何分以内につけるか)</p> | <p>C₂ お酒屋さんなどだいたいのお店でやってる C₂ 外国にも届けられる C₂ 電話1本でとりにきてくれる C₂ いろいろな種類 (クール宅急便) などがある C₂ 藤枝市の中で167軒 —3000件 —3000なんてもんじゃないよ ・児童たちがそれぞれ自分の考えを口にする。 ・児童がOHPの図に釘づけになっている。 ・店数の増加におどろきの歓声をあげる</p> |
| まとめ 31分 | <p>・1分以内、3分以内…… と順番に聞いて児童に手を上げさせる ・まとめをする</p> | <p>・5分以内までにほとんどの児童が手を上げる</p> |
| 展開 | <p>3. サービスがいいから ・発問 (これについて調べた人?) (何でも運んでくれるわけではないだね)</p> | <p>—はい! はい! 多数の生徒挙手 C₂ スキー用品を運んでくれて、プレー当日までに着いている。 C₂ 犬や猫はだめだけど、金魚は運んでくれる。 —はい! 5、6人が挙手 C₂ ペットは死んでしまったら責任が持てない。動物でも商品ならいい。 C₂ 郵便も宅配もサービスにかわりはない</p> |
| まとめ 42分 | <p>郵便か、宅配か議論になり、横道にそれかかったので語を戻す。 ・信頼を失いやすいサービスはしない。(運ばない方がいい荷物もある) ことを確認する。 4. 宣伝してるから</p> | <p>C₂ 宅配便はいろいろな種類があって、テレビでもよく宣伝している。</p> |
| まとめ | <p>・発問 (これを調べた人?) 宅配か郵便かで意見がわかれてきたのでまとめる。 (〜くんは郵便の方がいいといった責任感があるそうだ。) じゃあ そこのところを今度は詳しくやりましょう</p> | <p>C₂ 郵便局の方が安心、責任感がある →郵便局のよさを主張 —はい! はい! 声を大きくして反対の意見を述べる。 —ばくもそう思うよ —ばくも —でも宅配の方がいいよ ・口々に賛成、反対を叫ぶ</p> |

図-2は、この授業過程の映像記録と教師と児童の間で交換される言葉を詳細に記録した資料をもとに、上述した曹永達の方法を用いて、我々(馬居と夫伯、以下同様)が日本の社会科授業の社会的参与構造の基本類型として位置づけた「JSPS-1類型」を析出する過程を示したものである。

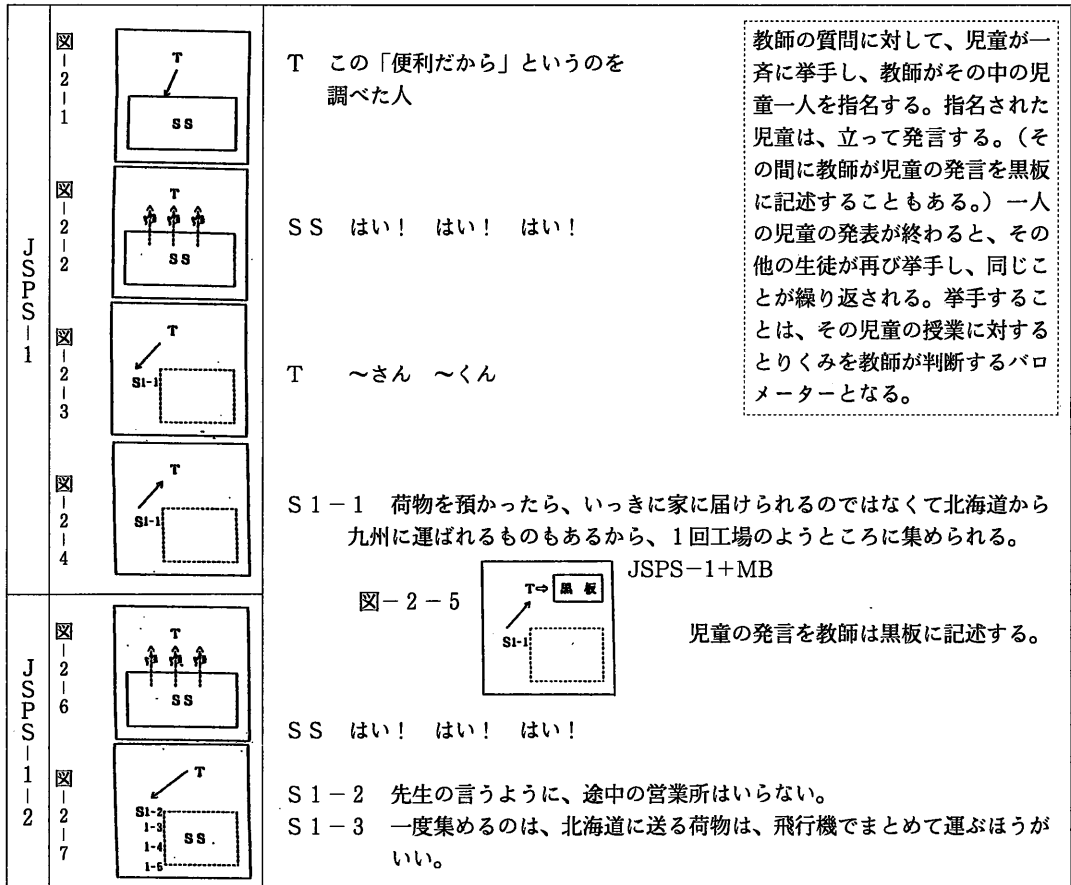
まず、「教師(T)」が「児童全体(SS)」を対象に「発問(矢印とその方向)」する(図-2-1)。それに答えるために、児童が一斉に「はい! はい! はい!」といいながら手をあげる(点線の矢印と手の絵のセット)(図-2-5)。教師は児童の中から「一人(S1-1)」を指名する(図-2-3)。教師に指名された児童(S1-1)が「一人立って発言(点線の四角の外に出る)」する(図-2-4)。

以上の教師と児童の社会的相互作用の過程を、我々は「JSPS-1類型」と名付ける。

さらに、この児童(S1-1)の答えを聞きながら、教師はその内容を要約して「黒板(実線で黒板を四角に囲んだ絵)」に「書く(白抜き矢印)」(図-2-5)。この過程を、「黒板blackboard」に「媒介的mediative」な役割を果たさせるという意味で「JSPS-1+MB類型」と名付ける。

さらに続いて、児童(S1-1)が答え終わると同時に、他の「児童(SS)」が再び「は

図-2 「小学校第5学年 なぜ宅配便の利用が増えたのか」



い！はい！ はい！」といいながら手をあげる。それに応じて教師は「次の児童（S1-2）」を指名する(図-2-6)。そしてこの過程が「児童(S1-3)、児童(S1-4)……」と繰り返される(図-2-7)。この過程を「JSPS-1-2類型」と名付ける。

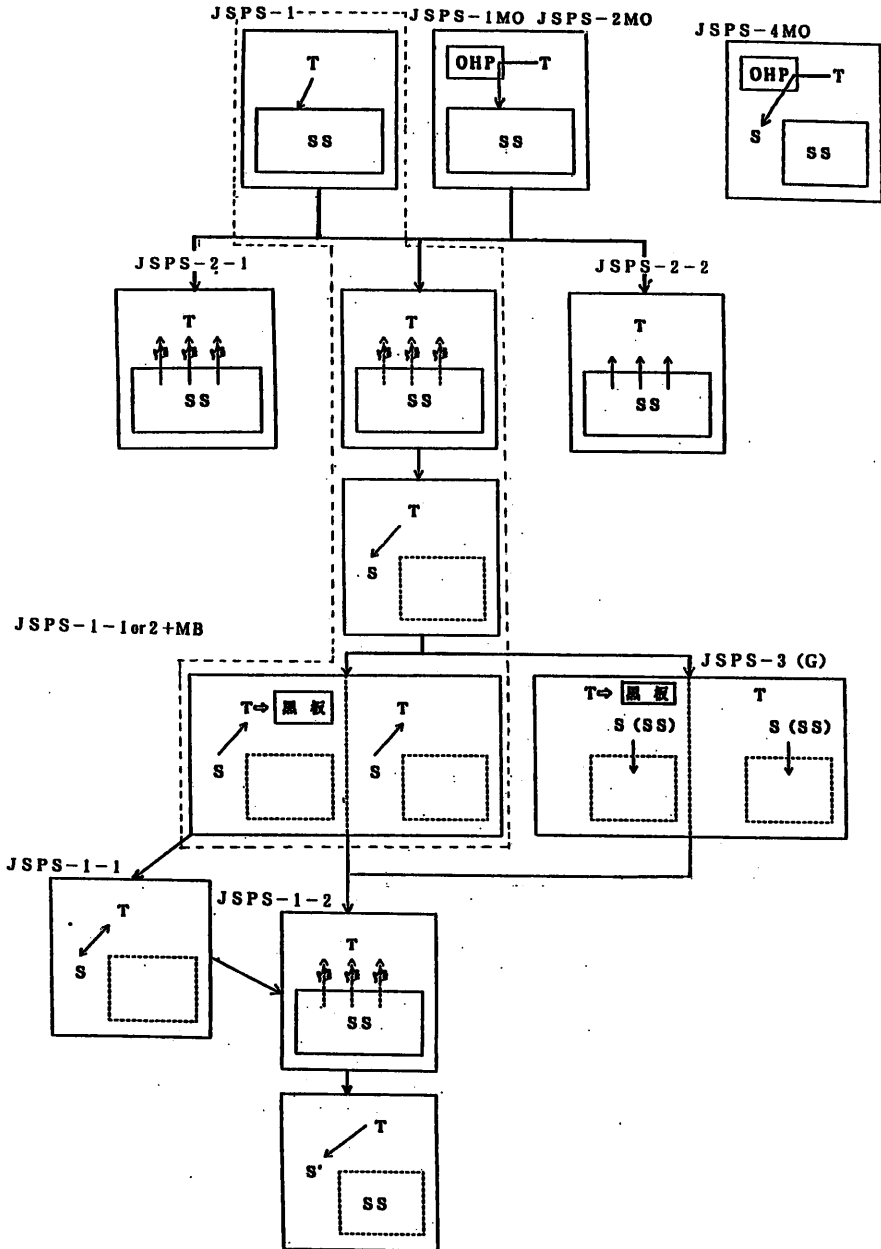
以上のような分析を、この小学校5年社会科授業過程全体に適用することにより、我々が析出した全ての社会的参与構造を、その相互の関連を考慮しつつ示したのが図-3である。

この図が示すように、我々は分析対象とした小学校5年社会科授業過程から5種の社会的参与構造(JSPS)とその分岐型の類型を析出することができた。本来ならば、この図示した類型全てについて、「JSPS-1類型」を析出する過程と同様の手順により説明しなければならない。だが、紙幅に限りがあることから、ここでは、分岐型も含めた各類型を構成する要素とその特性を略述するに止め、その析出過程については図-2と同様の手順により図示した資料を本稿末尾に掲載することで代えたい。

① JSPS-1類型とその分岐類型

上述したように、我々が析出した日本の社会科授業における社会的参与構造(JSPS)の「基本類型」が、図-3の中央に点線で囲まれた「JSPS-1類型」である。その過程を略

図-3 「小学校第5学年 なぜ宅配便の利用が増えたのか？」



述すれば次のようになる。

「教師の発問」→「児童の挙手」→「教師による児童の指名」→「児童が立って発言」

さらに、図-3に示すように、この基本類型の分岐型として、次の三種類が析出された。

- (a) J S P S - 1 - 1 [教師と同一児童との対話の連続]
 - ・ J S P S - 1 → 同一児童への教師の発問 → 児童の発言
- (b) J S P S - 1 - 2 [同一発問への多様な児童の挙手・発言の連続]
 - ・ J S P S - 1 → 同一発問への児童の挙手 → 教師による児童の指名 → 児童の発表
→ (繰り返し)
- (c) J S P S - 1 - 1 or 2 + MB
[媒介的 mediative ; 教師が児童の発言を黒板 blackboard に記録]
 - ・ J S P S - 1 - 1 or 2 → 教師による児童の指名 → 児童の発言 + 児童の発言にした
が教師が黒板に記述

② J S P S - 1 MO 類型 [基本類型-媒介的 ; 教師がOHPを通して発問する]

「教師がOHPを通じて発問」→「児童の挙手」→「教師の指名」→「児童の発言」という教師と児童の相互作用からなる社会的参与構造。

この類型は基本類型である「J S P S - 1」と類似しているが、教師がOHPという教育器械を通して発問することから、社会的参与構造としては別種の類型として位置づける。

③ J S P S - 2 類型 [教師の発問に児童が座ったまま直接答える]

「児童の挙手」→「教師の指名」→「指名された児童が立って答える」という教師と児童の相互作用を構成要素とする社会的参与構造が J S P S - 1 類型であるのに対して、いずれかの要因がないままに児童が答えを示したり発言する社会的参与構造を J S P S - 2 類型と名付ける。この類型においても次の2種の分岐型が析出された。

- (a) J S P S - 2 - 1 (児童が挙手のみで答える)
 - ・ 教師の発問 (選択肢) → 児童が自分に該当する答えを挙手で示す。
- (b) J S P S - 2 - 2 (児童が挙手せずに答える)
 - ・ 教師の発問 → 複数の児童が挙手せずに自由に発言

④ J S P S - 2 MO 類型 [媒介的 ; OHPを通しての教師の発問に座ったまま直接答える]

J S P S - 1 MO 類型と同様に、J S P S - 2 類型にOHPが媒介される社会的参与構造である。したがってこの類型も J S P S - 2 類型のように次の2類型に分岐する。

- (a) J S P S - 2 MO - 1 (児童が挙手)
 - ・ 教師の発問 (選択肢) → 児童が自分に該当する答えを挙手で明示
- (b) J S P S - 2 MO - 2 (児童が挙手しない)
 - ・ 教師の発問 → 複数の児童が挙手せずに自由に発言

⑤ J S P S - 3 (G) 類型

(教師に指名された児童 (グループ group) が他の児童に対して発言する)

児童の挙手を介さずに、教師が直接「児童（グループ group ; G）」を指名し、その児童（グループ）が発言する社会的参与構造である。この社会的参与構造においても、黒板を媒介した児童による発言がなされたため、次の2種に類型化した。

(a) J S P S - 3 (G)

- 教師の児童（グループ）の指名→児童（グループ）の意見を他の児童に発言

(b) J S P S - 3 (G) + MB (媒介的 ; 児童の発言を黒板に記録)

- 教師の児童（グループ）の指名→児童の発言を教師が黒板に記述する。

⑥ J S P S - 4 類型 [特定の児童の直接指導]

授業過程において、教師が特定の児童に対して個別的に直接指導する場合がこの社会的参与構造である。この授業ではOHPを介した指導も行われたため次の2種に類型化した。

(a) J S P S - 4

- 教師が特定の児童を直接指導する

(b) J S P S - 4 MO (媒介的 ; OHPの使用)

- 教師が特定の児童をOHPを通して直接指導する

(3) 中学校社会科歴史的分野の社会的参与構造 (J S P S) の類型 (仮説)

次の表-3は、小学校5年社会科授業と同様に、今回分析対象とした中学校2年社会科歴史的分野の授業である「軍縮への動きと軍部の台頭」の授業過程の記録の概要である。

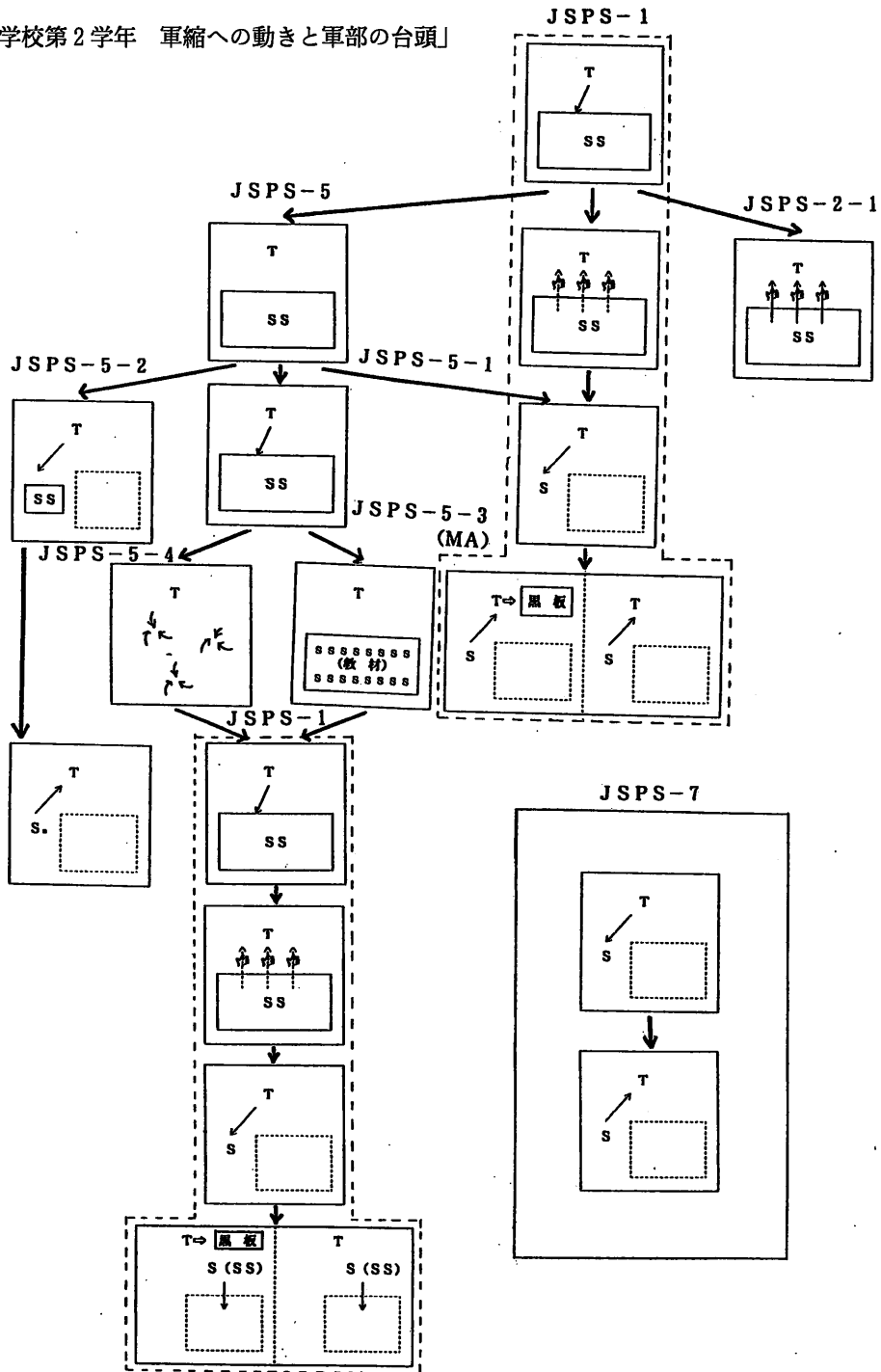
また図-4は、やはり上述した小学校5年社会科授業と同様の手順により析出した社会的参与構造の全体を図示したものである。ただし、それぞれの類型の析出過程については、小学校の場合と同様に本稿末尾の資料として提示することで代えたい。

表-3 「中学校第2学年 軍縮への動きと軍部の台頭」

| | 教師の活動 | 生徒の活動 |
|-----|--|---|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業の復習テストを行う（10問出題） ・前時にやったことと、本時にやることの確認 ・前時の簡単な復習 生徒を指名 ・本時の内容を説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・解答 ・発表 |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・予習してきたことを発表させる 生徒を指名・板書 ・出つくしたところで鉛筆を置かせ、内容の説明に入る 軍国主義、戦争・軍隊がからんでいること ・満州を地図帳で確認させる ・満州事変について、映画『ラストエンペラー』を例にあげる。 ・発問「なぜ溥儀を皇帝に立てたのか」 ・溥儀の地位を確認 ・周りと相談させる ・数人を指名 ・発問「日本が満州事変を起こしたことについてどんな動きがありましたか」 ・発問「その結果どうなりましたか」 ・発問「国際連盟は、何ていう人を代表に派遣した？」 ・日本は4つある常任理事国の1つであることを確認 ・発問「なぜ日本は満州からの引き上げをYESと言わなかったのか」 ・発問「日本の政府の中には、本当に戦争しようって人ばかりだったんだらうか。反戦争で平和な世界を作っていこう、その中で解決していこうという考えはないのらうか」 ・発問「それはどれくらいだと思いますか」 ・男子を指名 ・「他の人はどうでしょう」 ・発問「5・15事件とはどのような事件でしょう」 ・犬養毅の立場を確認 ・発問「犬養毅という人はどういう人に殺されましたか」 ・発問「海軍の青年将校がなぜ総理大臣を殺したんだらう」 ・発問「ではこの総理大臣は何を考えていたんだらう」 ・海軍にとって都合の悪いこと『ロンドン軍縮会議』、日本は景気回復を満州国をたてることによって実現しようとしたことの説明 ・発問「満州はなんと呼ばれていたでしょうか」 ・発問「国民はどうしましたか」 ・満州開拓移民の説明 ・発問「それはだれですか」 ・中国残留孤児の説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・挙手・発表 ・地図帳を出して調べる ・近くの生徒と相談 <ul style="list-style-type: none"> ・「占領した所の人から批判がでる」 ・「よくわかりません」 ・「清の皇帝だったから権力があった」 ・「中国が国際連盟に訴えた」 ・「日本に占領地から軍隊を引き上げるように…」 ・「また不景気になる」 ・「3分の1くらい」 <ul style="list-style-type: none"> ・全然なかったと思う—3人挙手 ・3分の1くらいはあったらう—数人挙手 ・もっと平和を求める声があがった—5人挙手 ・「犬養毅という人が殺された」 ・「海軍の青年将校」 ・「軍部中心の政治を実現するため」 ・「世界の平和を犠牲にしたいと考えていた」 ・「満州は日本の生命線」 ・「中国残留孤児」 |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・次回の予告「2・26事件から続きをやってみましょう」 | |

図4

「中学校第2学年 軍縮への動きと軍部の台頭」



この図-4から、中学校社会科歴史的分野の授業においても、小学校授業過程の分析により我々が日本の社会科授業の基本形としてとらえた「JSPS-1類型」が中心に位置づけられることが理解されよう。さらに、この「JSPS-1類型」のバリエーションともいべき社会的参与構造が数種見出された。

以下この点に注目しながら、この中学校社会科歴史的分野の授業の分析から析出された社会的参与構造の特性を列記していきたい。

① JSPS-5類型 = JSPS-1類型の変形

〔生徒が教師の発問に答えられない場合にとる教師の教授行為〕

日本の多くの中学校の授業で見られるように、この授業でも教師の挙手を前提とした発問に生徒が沈黙するという場面が多々あった。教師はそれに対して、さまざまな手だてを使って、生徒の自発的な発言を促し、JSPS-1類型にもっていかようとしている。

この過程に生じる社会的参与構造について、我々は次のように類型化した。

- (a) JSPS-5
 - ・教師の発問 → 生徒は沈黙
- (b) JSPS-5-1（特定生徒の指名）
 - ・教師の発問 → 生徒は沈黙 → 教師が特定生徒を指名 → 生徒の発言
- (c) JSPS-5-2（生徒の列の指名）
 - ・教師の発問 → 生徒は沈黙 → 教師が生徒の列を指名 → 生徒が順番に発言
- (d) JSPS-5-3（MA）（媒介的；生徒が共有する教材の指示）
 - ・教師の発問 → 生徒は沈黙 → 教師が教材（地図帳 atlas）を見ることを指示
- (e) JSPS-5-4（テーマの提示による討議）
 - ・教師の発問 → 生徒は沈黙 → 教師がテーマを提示 → 生徒（グループ）が討議

このように、今回分析対象にした中学校社会科歴史的分野の授業過程は、JSPS-1類型を基本としつつも、それに沈黙で答える生徒に対する教師の手だて、という社会的参与構造（JSPS-5）の分岐型により構成されている。いずれも、教師による教授過程を中心とした授業における社会的参与構造の類型といえるであろう。

では、もう一つの中学校社会科授業である公民的分野ではどうであろうか。

(4) 中学校社会科公民的分野の社会的参与構造（JSPS）の類型（仮説）

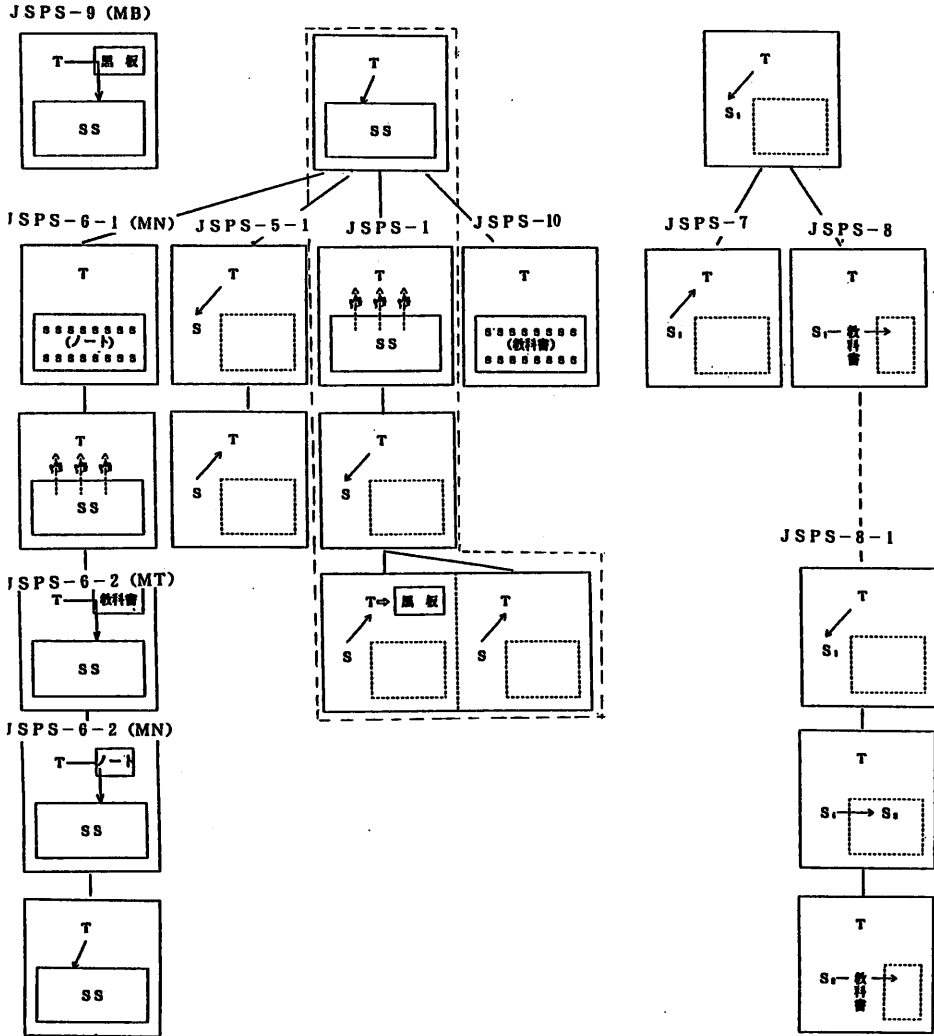
次の表-4は、これまでの小学校5年と中学校歴史的分野と同様に、中学校3年社会科公民的分野の「衆議院の優越」の授業過程の記録の概要である。

またそれに続く図-5も、やはり同様に、この授業過程を分析した結果析出された社会的参与構造の全てを、それぞれの相互の関連を考慮しつつ図示したものである。

表-4 「中学校第3学年 衆議院の優越」

| | 教師の活動 | 生徒の活動 |
|-----|--|---|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・選挙広報を見せて、政党名、選挙公約などを説明 ・「本題の学習に入ります」 「衆議院の優越」 ・「憲法のどこにのっているのか調べてもらいます。3つあります。」 <p>どのページかを言う</p> | |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読ませる <ol style="list-style-type: none"> 1. 法律案の優越について説明 ・教科書を読ませる <ol style="list-style-type: none"> 2. 予算案について説明 ・具体的人数を入れて考えてみる。 ・教科書を読ませる <ol style="list-style-type: none"> 3. 条約の締結について説明 ・教科書を読ませる <ol style="list-style-type: none"> 4. 内閣総理大臣の指名について説明 ・具体的例を出して説明 ・「なぜこういうふうに優越が与えられているか」 ・衆・参が同じ権限だったとしたら政治はどうなるか ・政治がその間、行なわれなくなる→国民が困る だから優越権が与えられている ・「なぜ衆議院なのか」 ・「被選挙権の年齢は何歳か」 ・「選挙は何年ごとか」 ・衆議院には解散もある | <ul style="list-style-type: none"> ・指名された生徒が教科書を読む ・指名された生徒が教科書を読む ・指名された生徒が教科書を読む ・指名された生徒が教科書を読む ・C 「話し合いができず、政治ができなくなる」 ・C 「衆議院は25歳以上、参議院は30歳以上」 ・C 「衆議院は4年、参議院は6年」 |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・「どちらの議員の方が、国民の意志を反映しやすいか」 ・年齢25歳→民意を反映しやすい ・解散もある ・だから衆議院の方に優越権が与えられている | |

図-5 「中学校第3学年 衆議院の優越」



この中学3年公民的分野の授業過程においても、やはり我々が日本の社会科授業過程における社会的参与構造の基本形とした「JSPS-1類型」を中心に展開されていることが理解されよう。しかし、ここでは、先の中学2年歴史的分野で見られた、「教師の発問→生徒の沈黙→様々な教師の手だて」という「JSPS-5類型」ではなく、いわばこの類型を縮小したと思われる社会的参与構造が新たに析出された。この点に注目しながら、中学3年公民的分野の授業過程において見出された新たな社会的参与構造の類型について略述しておきたい。

① JSPS-6類型 = JSPS-5類型の縮小

〔生徒が教師の発問に答えなことを予測した教師の新たな教授行為〕

「JSPS-5 類型」の場合は、「JSPS-1 類型」を前提としつつ、発問に対する生徒の沈黙を克服するための教師のさまざまな手だてが社会的参与構造の中心要素にある。

だが、この授業の場合、一応は教師は発問するものの、それに対して生徒が沈黙することを予想してか、生徒全体に発問したあと、それに応じた行動を生徒がとるのを待つことなく、直ちに次の指示に移る過程が見出された。このような社会的参与構造を「JSPS-6 類型」としてとらえ、教師の指示の違いによって次のように類型化した。

- (a) JSPS-6-1 (MT) (媒介的；教科書を見ることを指示)
 - ・教師の発問 (生徒沈黙) → 直ちに教師が生徒に教科書 textbook を見ることを指示
- (b) JSPS-6-1 (MN) (媒介的；ノートを見ることを指示)
 - ・教師の発問 (生徒沈黙) → 教師が生徒にノート note を見ることを指示
- (c) JSPS-6-2 (MT) (媒介的；教科書で指示)
 - ・教師の発問 (生徒沈黙) → 教師が教科書の該当部分を指示
- (d) JSPS-6-2 (MN) (媒介的；生徒のノートで指示)
 - ・教師の発問 (生徒沈黙) → 教師が生徒のノートの該当部分を指示

② JSPS-7 類型 (⇒ KSPS-2 類型と同型) [教師が特定生徒を指名]

この授業では、「教師が特定生徒を指名した後に発問する」→「生徒が発言する」という教師と生徒の相互作用、すなわち曹永達による韓国の社会的参与構造の一つである教師が問いを発することなく直接特定の生徒を指名し答えを要求する「KSPS-2 類型」と同型の社会的参与構造が見られた。ここでは、他の日本の社会的参与構造と区別するために、「JSPS-7 類型」として位置づけたい。

③ JSPS-8 類型 (⇒ KSPS-3 類型と類似構造)

[教師に指名された生徒が他の生徒に(教科書を読むことを)指示]

やはり韓国の「KSPS-3 類型」と類似した構造である、教師の指名により生徒が教科書を読む、という社会的参与構造が見られた。さらに、指名された生徒が教科書を読み終わったあと、その生徒が続いて読む新たな生徒を指名する場面も見られた。

そのため、このような社会的参与構造を次の2種に類型化した。

- (a) JSPS-8
 - ・教師が特定生徒を指名し教科書を読むことを指示 → 生徒が教科書を読む (⇒ KSPS-3)
- (b) JSPS-8-1 (生徒が生徒を指名)
 - ・教師が特定生徒を指名し教科書を読むことを指示 → 生徒が教科書を読む → その生徒が別の生徒に教科書を読むことを指示

④ JSPS-9 (MB) 類型 [媒介的；黒板の内容を介して生徒に教授]

この授業では、教師が教授内容を黒板に記述し、それをういて生徒全体に教授する場面が見られた。このような社会的参与構造を「JSPS-9 (MB) 類型」と名付ける。

⑤ J S P S - 10 類型 [媒介的；生徒全体に教科書を読むことを指示]
生徒全体に教科書を一斉に読ませる場面があり、それを「J S P S - 10 類型」と名付ける。

以上のことから、分析対象にした中学校3年社会科公民的分野の授業において、中学2年の歴史的な分野にもまして一方的な教授行為による授業過程の割合が増加していることが理解される。

では高等学校の場合はどうであろうか。

(4) 高等学校社会科政治経済の社会的参与構造（J S P S）の類型(仮説)

表-1 はこれまでの三つの社会科授業と同様に、高等学校社会科の政治経済の授業「クレジットカード」の授業過程を略述したものである。

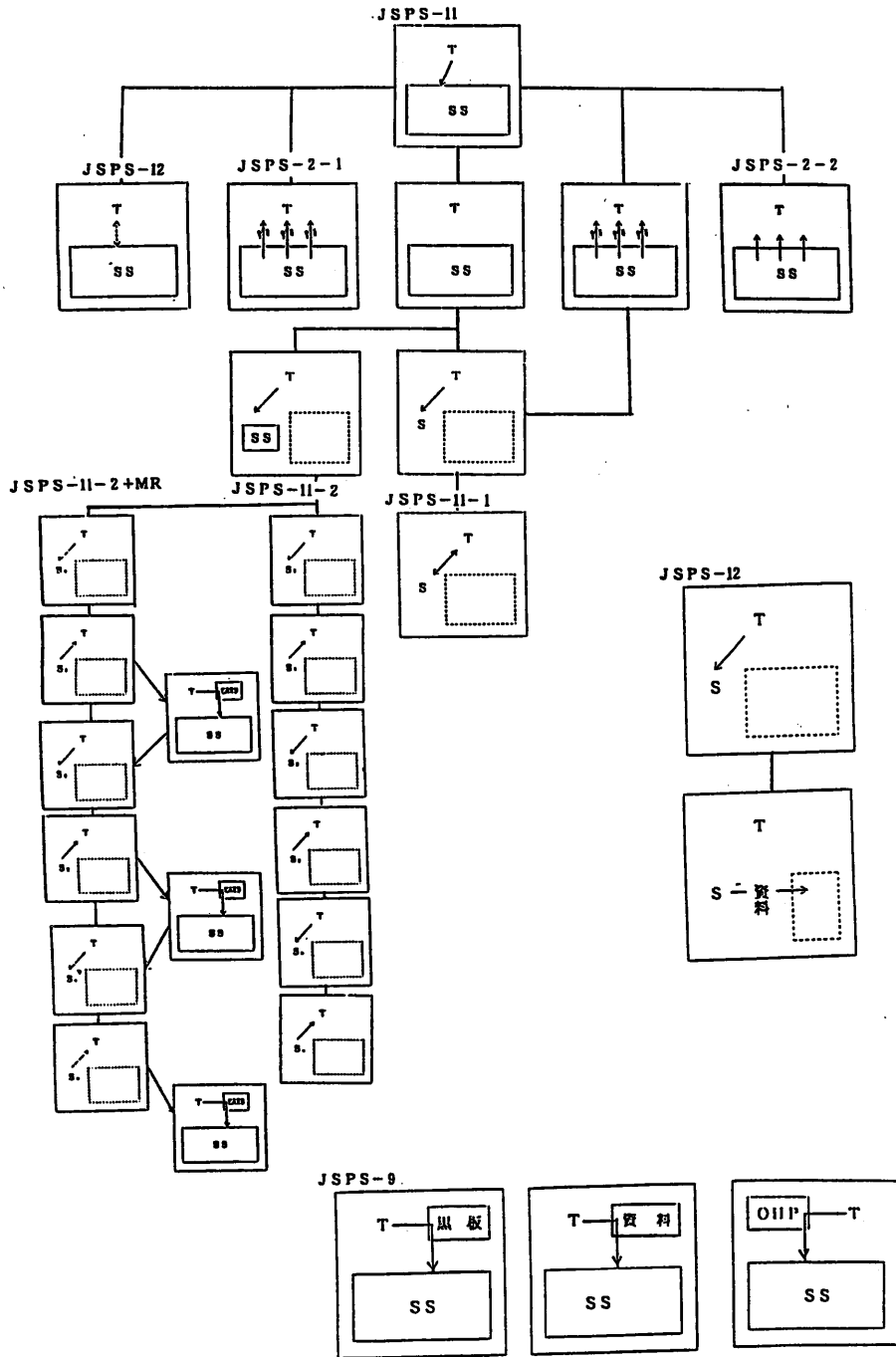
また図-6 も、同様に、この授業過程の分析から析出した社会的参与構造の全体を、その相互の連関を考慮しつつ図示したものである。

図-6 が示すように、この高等学校社会科（公民科）の授業では、我々が日本の社会科授業過程の基本類型と位置づけた「J S P S - 1 類型」は見られない。だが、それに類似した（変

表-5 「高等学校第3学年 政治経済 クレジットカード」

| | 教師の活動 | 生徒の活動 |
|-----|---|--|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時のあらすじ ・発問「どんなカードがありますか」 <ul style="list-style-type: none"> ・板書しながら指名 ・用意したカードを見せる ・プリペイドカード、クレジットカードに分類 ・キャッシュカード、プリペイドカードの説明 ・クレジットカードを持っている生徒を指名 ・クレジットカードの見本を回し、クレジットカードの説明 ・クレジッカードの機能を板書 | <ul style="list-style-type: none"> ・VISAカード等をあげる ・クレジットカードの説明 |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・「実際どういうカードがあるか見ていきましょう」 ・OHP使用 ・クレジットカードの二者間契約、三者間契約の説明 ・支払い方法について板書 ・リボルビング定額払いをOHPで説明 ・カードの申込書を配付 ・Wカード、トリプルカードの説明 ・申込書の説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・質問「1人が何枚ものカードを持ったら…」 |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・「便利なところ、危険なところを少し相談してごらん」 ・生徒の意見に補足 ・カード破産について資料配付 ・カードについて生徒に質問 ・「カードは便利なところもありますからよく考えて使うことが大切です」 | <ul style="list-style-type: none"> ・便利なところ、危険なところを1例ずつ発表 ・1人が読む <ul style="list-style-type: none"> ・カードをもつと自分を見失いそうだと怖い—挙手なし ・カードを持っても絶対安全—2/3くらい挙手 ・カードは持たない—1/3くらい挙手 |

図-6 「高等学校第3学年 公民 クレジットカード」



容あるいは進化した）社会的参与構造として、次の類型を析出した

① J S P S - 11 類型 = J S P S - 1 類型の変容（進化？）

〔J S P S - 1 類型の挙手が沈黙に変容〕

この授業過程でも、教師の生徒全体に向けての発問により授業が進められる。ただし、生徒は沈黙したままである。それに対して、教師は J S P S - 1 のようにあえて手を上げさせるのではなく、しばらく間を置いたあと、直接特定の生徒を指名をして回答を求めている。

その際の生徒の指名の仕方や教材の提示の仕方の相違により、次の3種に類型化した。

(a) J S P S - 11 - 1（特定生徒の指名）

・教師の発問 → 生徒の沈黙 → 特定生徒の指名 → 生徒の発言（教師と対話）

(b) J S P S - 11 - 2（生徒の列の指名）

・教師の発問 → 生徒は沈黙 → 教師が生徒の列を指名 → 生徒が順番に発言

(c) J S P S - 11 - 2 + MR（媒介的；実物 realthing の提示）

・教師の発問 → 生徒は沈黙 → 教師が生徒の列を指名 → 生徒が順番に発言
→ 教師が生徒の発言に応じてクレジットカードの実物を提示

② J S P S - 12 類型 = J S P S - 1 類型の変質（終焉=完成？）

〔生徒の理解度を教師が読み取る〕

この授業では、「教師の発問」→「生徒の沈黙（暗黙の了解）」↔「（教師の暗黙の読み取り）」という相互作用が見出された。すなわち、教師の発問に対して生徒が沈黙したあと、その沈黙の意味を読み取るかのように教師は暫く間を置き、そのまま次の課題に進む場面がみられた。我々はこの過程を、教師が自分の発問に対する生徒の答えや理解度を、生徒の表情や目の動き等により読み取ることにより判断している、と解釈した。そのため、この社会的参与構造を、いわば基本類型である「J S P S - 1 類型」が変質したもの、あるいは「終焉 = 完成？」したものとして位置づけた。

なお、上記の社会的参与構造以外に、次のような既に指摘した類型の分岐もしくは変形と解釈される類型が見られた。

③ J S P S - 9 類型の分岐 〔媒介的；多用な媒体を介して生徒に教授〕

(a) J S P S - 9（MR）

・教師が用意した実物（クレジットカード等）を用いて生徒に教授

(b) J S P S - 9（MO）

・教師がOHPを介して生徒に教授

④ J S P S - 13 類型 = J S P S - 8 類型の変形

〔生徒を指名し教師が用意した資料を読みます〕

・教師の特定生徒指名 → 生徒が資料を読む

2) 社会科の社会的参与構造(JSPS)の特性

これまで小学校5年社会科、中学校社会科歴史的分野、中学校社会科公民的分野、高等学校社会科政治経済と4種社会科授業をとりあげ、その分析を進めることから、日本の社会科授業過程における社会的参与構造を明らかにしてきた。

我々は、このように析出された日本の社会的参与構造(JSPS)をもとに、先に紹介した曹永達による韓国の社会的参与構造との比較を念頭におきつつ、日本の社会科授業の特性の考察を進めた結果、小、中、高の社会科それぞれについて、おおよそ次のようにまとめることができた。

(i) 小学校社会科の社会的参与構造の特性

- ① 原則として教師は児童を“挙手”に基づき指名する。(参照⇒KSPS-2)
- ② 原則として発表する児童は“一人”である。(参照⇒KSPS-1)
- ③ 教師にとって“挙手の機能”は児童一人一人を“学習活動に誘引”することである。
- ④ 児童にとって“挙手の機能”は“学習活動への参加”を教師に明示することである。
- ⑤ 複数の児童が発表する場合も“答えは複数”である。
- ⑥ 教師と児童の“対話”が“連続”的に進行する。
- ⑦ 教師が児童を指名して後に発問する場面は少ない。
- ⑧ 児童全体で“同じ発言を一斉に行うことはほとんどない”。
- ⑨ 児童による“学校外”での“調査活動”を重視する。
- ⑩ 児童の“思考活動”や“意見”を重視する。
- ⑪ 教師が児童の発言を“黒板”に“記述→記録”するが多い。
- ⑫ “教育機器(OHP等)”を媒介させることが“多い”。
- ⑬ “教科書”を媒介させることが“少ない”。
- ⑭ 児童の“発言”の方向は主に“教師”である。
- ⑮ “児童が児童に発言”する場合も、原則として“教師を介し”ている。
- ⑯ 児童が“相互に対話・論議”する場面が“少ない”。

(ii) 中学校社会科歴史的分野(第2学年)の社会的参与構造の特性

- ① 基本は小学校と同様に“JSPS-1類型”であるが、社会的参与のあり方に“構造的な変化”が生じている。(参照⇒JSPS-5類型)
- ② 教師の発問に生徒が“挙手しない”ために“発言を促す多様な指示”を行う。
- ③ “挙手の機能”が教師による“学習結果の確認手段”に変化する。
- ④ “教科書以外”に生徒が“共有する教材”を用いることが多い。
- ⑤ 生徒同士による“論議”が“知識理解を進める手段”として用いられる。
- ⑥ “黒板”が学習内容の“記録(焦点化・構造化)”として使用される。

(iii) 中学校社会科公民的分野(第3学年)の社会的参与構造の特性

- ① 基本は小学校と同様に“JSPS-1類型”であるが、中学校社会科歴史的分野よりも“構造的な変化”が進んでいる。(参照⇒JSPS-6類型)
- ② 教師の発問に生徒が“積極的に答えない(挙手しない)ことを前提”に授業を進める場合

がある。

- ③ 教師は“挙手”で生徒の“学習進度を把握できなくなる”。
- ④ 挙手を待たずに、生徒の“学習活動を促進させる”のために“多様な方法”を連続的に指示する。
- ⑤ 生徒の“参加意欲”を高めるために“生徒が生徒を指示”する場合もある。
- ⑥ “K S P Sと同様”に生徒を指名した後に教師が指示する場面がある。

(iv) 高等学校社会科政治経済の社会的参与構造の特性

- ① “生徒の沈黙（暗黙の了解）”を前提としてJ S P S基本類型が進行する。
- ② 教師と生徒との関係が“対等関係”に近い。
- ③ 教師と生徒の間の“相互理解の手段”として“挙手の儀式が不要”になる。
- ④ 教材として教師が用意した“実物”が多用される。
- ⑤ 教科書を用いない。
- ⑥ 教師が“多用な媒体”を介して教授する場面が多い。

3) J S P Sに基づく日本の社会科授業・教室文化の特性

上述した社会的参与構造（J S P S）析出に基づく四種の社会科授業の特性を総合するに、社会科授業に現れた日本の教室文化の特性として次のことを指摘したい。

(i) 「学習主体」——児童・生徒個々の学習への参加（意欲）の重視

- ① 直接指名せずに挙手を求める。
- ② 発表は一人が原則。
- ③ 多用な発言を喚起する。
- ④ 学習活動や発言を促すための多用な方法を用意する。
- ⑤ 児童・生徒間での指名。
- ⑥ 事前学習（調査）を重視する。

小→中→高と上がるにつれて“挙手の儀式”が不要（完成）になり、教師と生徒相互の間に“暗黙の了解”（挙手の内面化）が可能になる。

(ii) 「学習内容」——教科書よりも児童・生徒の社会生活の中にある事象を重視

- ① 調査活動を重視する。
- ② 教材として具体的な実物を用意する。
- ③ 学習内容と児童・生徒の経験（身近な社会事象）との関係を重視する。
- ④ 教科書は限られた条件のもとでしか用いない（知識の整理、参考書）。

社会的世界の理解という社会科教育の目的を達成するために、教科書中心ではなく、児童・生徒が現実に生きる社会生活の中の事象を学習対象にする。

(iii) 「学習媒体」——多用な媒体の使用

- ① 黒板への記述を重視する。
 - ・発言内容の記録
 - ・学習内容のまとめ（知識の構造化）
- ② OHPをはじめとする多用なメディアの活用。

児童・生徒個々の日常生活に則した社会的知識を学習対象にすることから、複雑多様な社会的事象に関する知識を整理・総合（構造化）し、それらを児童・生徒に共有させるためには、多様な教授媒体（教育機器）が必要となる。

(iv) 「教育主体」—教師と児童・生徒関係の対等化への指向（装い = 演技）

- ① 教師と児童・生徒の間に対話が連続する。
- ② 日常生活言葉で対話が交わされる。

教師による児童・生徒への教授行為を、教師と児童・生徒の関係の一方的な権威—権力関係ではなく、双方向的な相互理解関係で進める教育的行為に変化させることを理想とする。

2. 残された課題。

本来ならば、冒頭で述べたように、以上の考察のあと、「対話移動様式」の分析を進め、その結果と「社会的参与構造」の特性とを総合することから日本の社会科授業過程に現れた教室文化の特性とその背後にある日本の社会的文化的特性を指摘し、その上で日韓両国の社会科授業改善への提言をしなければならない。その草稿も既に手元にある。

しかし、本研究紀要において本稿に許された紙幅は既に大幅に超過している。そのため、ここでは、その草稿の目次を以下に示すことに止め、新たな発表機会を待ちたい。

3. 日本の社会科授業の「対話移動様式」とその特性

- 1) KSPSに基づく韓国の社会科授業の「学習対話移動様式」の項目について
- 2) JSPSに基づく日本の社会科授業の「学習対話移動様式」の項目について
- 3) 「日本社会科授業主題学習対話移動様式・頻度分布」
- 4) 「日本社会科授業主題学習対話移動様式・頻度分布」の特性
- 5) 韓国との比較による特性

III. 結 論

1. 日本の社会科教育の授業における教師—児童・生徒の対話構造の特性
 - 1) 「挙手の儀式→暗黙の了解」の構造 ⇒ 個の選択・意欲を介した集団への同調
 - 2) 「教材のリアリティ」の構造 ⇒ 個別的可変的な社会認識の共有・全体化
 - 3) 「黒板」の構造 ⇒ 文節的知識の固定による認識と行動の分離
2. 日韓両国の社会的文化的特性との相互連関性

- 1) 日本の社会的意識・行動様式
- 2) 韓国的社会的意識・行動様式
3. 日韓両国の社会科授業改善のために
 - 1) 日本の社会科教育授業改善の課題
 - 2) 韓国の社会教育授業改善の課題











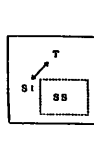








なお、本稿で用いた曹永達の方法は全てハングルで記述されたものである。その日本語訳は、大阪韓国教育院におられる宋在鴻先生によるものであることを記して感謝の意に代えたい。また、本研究の分析対象とした社会科授業のビデオ撮影においては、静岡県藤枝市立青島小学校校長成岡桂三先生、同湖西市立鷺津中学校教務主任藤田源大先生、お茶の水女子大学附属高等学校教諭谷田部玲生先生にご援助いただいたことを記して、同様に感謝の意に代えたい。








資料編

次頁以後に掲載する資料は、社会的参与構造を析出する過程を示したものである。そのため、実際の授業過程にそったものではない。







この資料は私の研究室に所属する静岡大学教育学部社会科4年の杉山和久君、田中真佐子さん、長谷川明子さん、松井麻子さん、3年の前田七美さんの5名の援助により作成したものであることを記して、感謝の意としたい。

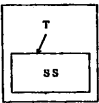









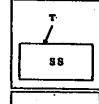




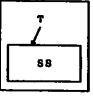
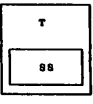
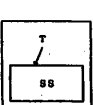
「小学校第5学年 なぜ宅配便の利用が増えたのか」






| | |
|---|--|
| <p>No.1</p> <p>・教師の質問に対して、児童が一齐に挙手し、教師がその中の一人を指名する。指名された児童は、立って発言する。(その間に教師が児童の発言を黒板に記述することもある。)一人の児童の発表が終わると、その他の生徒が再び挙手し、同じことが繰り返される。挙手することは、その児童の授業に対するとりくみを教師が判断するバロメーターとなる。</p> <p>JSPS-1</p>  <p>T1 この「便利だから」というのを調べた人?</p> <p>SS はい! はい! はい!</p>  <p>T ~さん ~くん</p>  <p>S1-1 荷物を預かったら、いっきに家に届けられるのではなくて北海道から九州に運ばれるものもあるから、一回工場のようなところに集められる。</p>  <p>児童の発言を教師は黒板に記述する。</p> <p>SS はい! はい! はい!</p> <p>JSPS-1-2</p>  <p>S1-2 先生の言うように、途中の営業所は知らない。</p>  <p>S1-3 一度集めるのは、北海道に送る荷物は、飛行機でまとめて運ぶほうがいい。</p> | <p>No.2</p> <p>・教師の質問に対して、児童が一齐に挙手し、教師がその中の児童一人を指名する。指名された児童は、発表が終わると、その発言の内容に関することなどに対して再び教師に質問される。</p> <p>JSPS-1-1</p>  <p>T1 「宅急便が、早いから」これを調べた人?</p> <p>SS はい! はい! はい!</p>  <p>T ~さん</p>  <p>S1 宅急便は夜中も走ってて、1日ぐらいてついでしまう。郵便は宅配よりも遅くて、2、3日かかる。</p>  <p>T1 これはどうしてわかったの?調べ方を教えてください</p>  <p>S1 郵便局とか、お店にいった調べました。</p> |
| <p>No.3</p> <p>・教師の質問に対して、児童が一齐に挙手し、教師がその中の児童一人を指名する。指名された児童は、黒板の前に出ていき、その他の児童に、自分の調べたこと(OHPや、画用紙にまとめたもの)を見せながら発表する。</p> <p>JSPS-1-1 or 2 + MB</p>  <p>T1 「宅急便が、早いから」これを調べた人?</p> <p>SS はい! はい! はい!</p>  <p>T ~さん</p>  <p>S1-4 ここに「50-01」ってあるんだけど、「50」は、藤枝のことで、「01」は、町のことを、表します。</p>  <p>(黒板の前に出ていき、用意した資料をみんなに見せながら発表する。)児童の発言を、教師は黒板に記述する。</p> | <p>No.4</p> <p>・教師の質問に対して、児童が一齐に挙手し、教師の指名によって一人の児童が発表することは同じだが、この場合は教師の質問がOHPを通して行なわれている。</p> <p>JSPS-1 MO型</p>  <p>T1 このような工場のようなところに集められるわけですね。誰か聞いてきた人いますか?</p>  <p>SS はい! はい! はい!</p>  <p>T ~くん</p>  <p>S1 1回、静岡とか浜松とかの営業所に集められてからお客様届けられるそうです。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>No. 5 ・教師の質問に対して、児童が挙手するのではなく、座ったまま思い思いのことを、述べている。</p> <p>JSPS-2-2</p>  <p>T 3 昭和 51 年には 450 軒、では平成 4 年には何軒あるでしょう。</p>  <p>SS 3-1 3000 軒 SS 3-2 3000 なんてもんじゃないよ SS 3-3 10000 SS 3-4 26000</p> <p>・上の図とほとんど同じだが、この場合は教師の質問が OHP を通して行われている。</p> <p>JSPS-2 MO-1 (児童が挙手しない)</p>  <p>T 1 宅配の利用は、年 1 人平均いくつですか？</p>  <p>T 2 外国とかは、船や飛行機で行きますね、では日本は？</p> <p>S 1 11 回 S 2-1 車です。 S 2-2 北海道とかは、飛行機です。</p> | <p>No. 6 ・教師が、三択のような質問をし、児童各自が、自分の該当する質問に手を上げる。このような質問の場合、クイズのような気持ちで答えられることもあり、生徒の意欲を引き出すのに効果的である。</p> <p>JSPS-2-1</p>  <p>T 5 千くらいいくと思う人？ 1 万近くいくと思う人？ 5 千以下だと思う人？</p>  <p>T お店に 30 秒以内に着く人？ 1 分以内？ 3 分？ 人？ 5 分？ 10 分？ 1 時間以上かかる</p> <p>SS 教師の質問中で、各自が自分の該当する質問に手を上げる。</p> <p>・OHP に描かれている図を通して質問するが、特定の児童をいきなり指名している。</p> <p>JSPS-4 MO (媒介的：OHP の使用)</p>  <p>T 1 宅配便は何色ですか？</p> <p>S 1 赤色です。</p> |
|--|---|







「中学校第 2 学年 軍縮への動きと軍部の台頭」

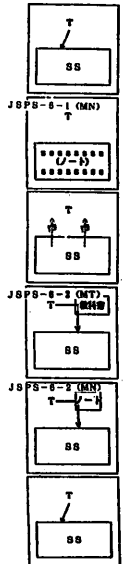
| | |
|--|--|
| <p>No. 1 教師の発問に対し、生徒が挙手し、教師が指名して生徒が答える</p> <p>JSPS-1</p>  <p>T 1 予習してきたことを発表して下さい</p>  <p>T 13 ラストエンペラーの主人公は何ていう人でしたか</p>  <p>T ○○さん T ○○くん</p>  <p>S 1-1 1931 年に日本軍が中国と戦いました S 1-2 満州を占領した S 1-3 1932 年満州国を作った S 13 溥儀</p> | <p>No. 2 教師が生徒を直接指名し、生徒が答える</p> <p>JSPS-7</p>  <p>T 33 ○○くん、首相って何ですか T 34 首相を、○○さん別の言葉でいうとなんでしょうか (4 人に対して) T 36 ○○さん今の総理大臣は誰ですか</p>  <p>S 33 政治の中心 S 34 わかりません S 36 宮沢さん</p> |
|--|--|

| | |
|---|--|
| <p>No.3 教師が生徒に指示を出し、生徒が従う</p> <p>JSPS-5-3 (MA)</p>  <p>T 6 鉛筆持ってる人全部置いて T 8 地図帳で満州を確認 T 10 みんな見てよ</p>  | <p>No.4 教師が発問するが、生徒の反応がないため、近くの生徒と相談させる。話し合いが終わったのち、教師の指示により生徒が挙手し、教師が指名して生徒が答える</p> <p>JSPS-5-4</p>  <p>T 16 王様を日本の天皇じゃなくて、なんで溥儀さんにしたんだろう</p>  <p>T 17 はい相談してよし</p>  <p>T 18 (話し合いを持って) はいどうですか</p>  <p>T ○○くん</p>  <p>S 18 占領したとこの人から批判が出る</p>    |
| <p>No.5 教師が発問するが、生徒の反応がないため教師が質問を変更すると生徒が挙手する。教師が指名して、生徒が答える</p> <p>JSPS-5-1</p>  <p>T 21 じゃあ日本の天皇が支配したらどうなりますか</p>  <p>T 22 [質問変更] 日本が満州国を作ったことに対して、どんな動きがありましたか</p>  <p>T ○○くん</p>  <p>S 22 中国が国際連盟に訴えた</p>  | <p>No.6 教師が発問するが、生徒の反応がないため、教師自らが答える</p> <p>JSPS-5</p>  <p>T 24 訴えられた国際連盟がなんていう人を派遣した?</p>  <p>T 24' [教師解答] リプトン調査団というのを派遣したんだけど</p>  |

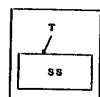
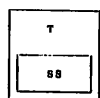
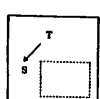
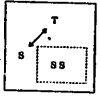
































| | |
|--|---|
| <p>No. 7 教師が生徒に挙手を求め、生徒はその内容に対し挙手で意志表示する</p> <p>JSPS-2-1</p>  <p>T 12 ラストエンベラー見た人、手をあげて。</p>  <p>T 30 (平和を求める声)が全然なかったと思う人。3分の1くらいだと思う人。もっとあったと思う人</p> | <p>No. 8 教師が全体に発問したあとで、教室の列で指名し、生徒が一人ずつ答える</p> <p>JSPS-5-2</p>  <p>T 31 この事件はどういう事件でしょう T 32 犬養毅というのは、何ていう役についてるんだっけ</p>  <p>T はい窓側の列</p>  <p>S 31 犬養毅 S 32 首相</p> |
|--|---|








「中学校第3学年 衆議院の優越」

| | |
|--|--|
| <p>No. 1 教師が生徒に発問し、挙手した生徒を指名し、その生徒が答えている。</p> <p>JSPS-1</p>  <p>T, はい、見つけた人</p>   <p>T, ○○くん</p>  <p>S, ○条と○条と○条です</p> | <p>No. 2 教師が、教科書から答えを捜し出すように指示し、生徒がそれに従い教科書を見ている。</p> <p>JSPS-10</p>  <p>T, どこにのっているのか今からみんなに調べてもらいます T, 教科書のどこかに衆議院の優越とはっきり書いてあるところが3条あります はい、自分で探してください</p>  |
|--|--|

| | |
|--|---|
| <p>No. 3 教師の発問に対し挙手が少ないため、ノートや教科書を見直すように指示し、再び同じ発問を繰り返している</p>  <p>JSPS-6-1 (MN)</p> <p>T 1, 衆議院で可決されるにはどれくらいが必要ですか？</p> <p>T, ノート見たほうが早いかもしれない T, 教科書にのっていますから見つけて手を挙げましょう</p> <p>(挙手が少ないため) T, これは分からないといけないから読むぞ (教科書)</p> <p>JSPS-6-2 (MT)</p> <p>T, ノートを見て ひとつめ 憲法改正の決議。ふたつめ 衆議院で再び審議するとき。みつつめ 議員除名。 ここまでは3分の2以上の賛成が得られれば可決されるわけです。</p> <p>JSPS-6-3 (MN)</p> <p>T 1' では、法律案が衆議院で可決されるにはどれくらい賛成が必要ですか？</p> | <p>No. 4 一人の生徒を指名して発問し、その生徒が答えている</p> <p>JSPS-7</p> <p>〇〇くん T 1, 衆議院議員の任期は何年ですか？</p> <p>A 1, 4年</p> <p>全体に向かって発問するが、挙手を待たずに、一人を指名し、答えさせている</p> <p>JSPS-5-1</p> <p>T 1, 国会で一年間ずっと一つの話をしていたら政治はどうなりますか？</p> <p>T 2, 〇〇くん</p> <p>A 2, 予算とか決められなくて内閣は仕事が出来ない</p> |
| <p>No. 5 教師が一人を指名し、教科書を読ませる</p> <p>JSPS-8</p> <p>T, 今日は17番の男子読んでください</p> <p>教師が先に教科書を読んだ生徒を指名し、その生徒に別の生徒を指名させて、教科書を読ませている</p> <p>JSPS-8-1</p> <p>T, 〇〇くん、次の人を指名してください</p> <p>A, 〇〇さん</p> | <p>No. 6 教師の発言に対し反応はしていないが生徒は聞いている (暗黙の了解)</p> <p>JSPS-12</p> <p>T, 用語ですからそのまま覚える T, よく聞いてよ T, 1条と9条は丸暗記の方がいいです T, よく見てよ T, ノートを見て T, ホラ、頑張ってよ もう少しだよ T, ホラ、女子 手を挙げてよ</p> <p>教師が黒板に書きながら、生徒に説明している。</p> <p>JSPS-9 (MB)</p> <p>T, 衆議院の可決が参議院で否決された場合の衆議院の優越の説明 T, 内閣総理大臣の任命の衆議院の優越の説明</p> |

「高等学校第3学年 クレジットカード」

| | |
|--|---|
| <p>No 1 一人の生徒を指名した後、その生徒に確認する。</p> <p>JSPS-11-1 (特定生徒の指名)</p>  <p>T 7 CASH CARD ってどういうの？</p>  <p>S S (はっきりとした反応がない)</p>  <p>T ~さん</p>  <p>S 7 自分の口座にお金を入れて、出し入れする。 T 自分の口座に入れてお金を出し入れするわけだね。 S S (教師の確認の質問にうなずく)</p> | <p>No 2 列指名</p> <p>JSPS-11-2 (生徒の列の指名)</p>  <p>T 26 便利なところ、危険なところ、ちょっと考えて。聞くぞ、聞くぞ。</p>  <p>S S (はっきりとした反応がない)</p>  <p>T 27 はい、ここ便利なところ聞きます。はい、ここ怖いところ聞きます。</p>  <p>T 28 じゃー便利なところから聞きます、はい。</p>  <p>S 28 現金の持ち合わせがなくても買える。</p>  <p>T 29 現金の持ち合わせがなくても買える。これ便利だね。確かにね。はい、次。</p>  <p>S 29 お財布を盗まれても大丈夫。</p>  <p>T 30 お財布を盗まれても大丈夫。現金は、名前かけないもん。はい。</p>  <p>S 30 高いものを買う時、まず、貯金する必要がない。</p>  <p>T 31 高いものを買う時、まず、貯金する必要がない。分割払いで払えばいい。はい。</p>  <p>S 31</p>  <p>S 32</p>  <p>S 33</p>  <p>S 34</p>  <p>S 35</p>  <p>S 36</p>  <p>S 37</p>  <p>S 38</p> <p>S 39 お金の価値観の喪失。</p> |
| <p>No 3 列車名で生徒の発表したカードを実際に見せている</p> <p>JSPS-11-2 +MR (媒介的: 実物 real thing の提示)</p>  <p>T カードといえば何があるか？</p>  <p>T よし、カードといえば何があるか？この列に聞いてみよう。</p>  <p>T 1-1 どういうカードがあるか。</p>  <p>S 1-1 VISAカード。</p>  <p>T 1-2 はい続けて、もっと大きく考えよう。</p>  <p>S 1-2 日本信販。</p>  <p>T 1-3 はい。</p>  <p>T 1-4 はい次。</p>  <p>T 1-5 はい。</p> <p>S 1-3 テレホンカード。 S 1-4 イオ・カード。 S 1-5 オレンジ・カード。</p> | <p>No 4 教師が生徒に確認を取るが、ハイ、イエという言葉ではなく、教師は生徒の顔を見て判断している。</p> <p>JSPS-12</p>  <p>T 24 わかったか？ ここ、質問ないか？(プリント)</p>  <p>T 25 わかるか？ 質問ないか？ 大丈夫だな？(プリント)</p>  <p>S S (生徒のはっきりとした反応はないが、暗黙の了解のうちに次に進む)</p> <p>教師の発問の中で、各自が自分の該当する発問に手を挙げる</p> <p>JSPS-2-1</p>  <p>T 42 最後に聞いてみましょう。私はCARDを持つと、絶対自分を見失いそうで怖い、私はそういう女だ。CARDを使うけれども、計画的に使うし、安全よ。私は、絶対もたない。</p>  <p>S 42 (それぞれの質問に、数名、3分の2、3分の1が挙手)</p> |

| | |
|---|--|
| <p>No.5 いろいろなものを媒介にしている命令形</p> <p>JSFS-9 (MO)</p>  <p>JSFS-9 (MR)</p>  <p>JSFS-9 (MB)</p>  <p>T (OHP CARD 黒板などをさして) これを見て下さい。</p> | <p>No.6 教師が資料を読むように一人の生徒を指名し、その生徒が資料を読んでいる。</p> <p>JSFS-13</p>  <p>T (資料を用いて) 読んでください。</p>  <p>教師の発問に対して、生徒の反応があり、生徒はばらばらと座ったまま発言している。</p> <p>JSFS-2-2</p>  <p>T イオカードって何でイオカードっていうか知ってる</p>  <p>SS しってるー。しらなーい。えー、わかんない。</p> |
|---|--|